

■は神社



## ①三好八幡社

寛仁3年(1019)創建。みよし市内最古の神社とされる。御祭神は、かんじん菅田別尊・くくりひめのみこと菊理比売命・おおうすのみこと大碓命。けいだいしゃ境内社に五穀社・三保社・三好神社・白龍社がある。



三好八幡社

秋祭りは10月第三日曜日に開催。巻藁提灯を飾った山車を引き回し、神輿の渡御や子ども囃子台巡行が行われる。



三好上・下の山車  
(三好八幡社)

## ② 殉國戦士之碑

昭和12年（1937）の日中戦争から昭和16年（1941）以後の第二次世界大戦に至るまで、三好村から応召され従軍した人の数は1100名を超え、その内290余名もの人が戦死している（『三好町誌』第1巻 第9編「兵事」による）。戦没者全員の氏名を刻んだ「殉國戦士之碑」が昭和29年（1954）4月、三好中学校の校庭西に建てられた。その後、昭和50年（1975）、現在の中部老人憩いの家の前庭に移された。



殉國戦士之碑

## ③ 阿弥陀寺



阿弥陀寺本堂

浄土真宗大谷派。阿弥陀寺の縁起によると、長和年間（1012～17）比叡山の源信僧都が弟子慶祐阿闍梨に命じ、僧都自ら阿弥陀如来像を彫刻し安置させ、天台宗浄土山円明院阿弥陀寺と号した。永禄年間（1558～70）に兵火を被り、阿弥陀如来像を残して諸堂ことごと

く焼失したが、正徳、享保の頃（江戸中期）、念仏者であった塚崎四郎平が所有の田地を寄進し、阿弥陀庵を建立。専修念仏の寺となる。浄土宗の春谷法師が招かれて初代となり、正徳5年（1715）天台宗を転じて浄土真宗の一寺としたとされる。

〈主な行事〉

報恩講 花祭 春秋彼岸会 修正会

#### ④ 与願寺



与願寺本堂(右)と虚空蔵堂(左)

浄土宗西山禅林寺派。与願寺の由緒には「行基菩薩、当村に来たり」の一文が残されている。東大寺大仏建立のため諸国行脚の途中、たまたま当地に立ち寄った行基が疫病に苦しむ人々を憐れみ虚空蔵菩薩像を彫って、

悪疫退

散の祈願をしたところ、悪病はたちどころに平癒したので、村人は一字の坊を建てた。それから800年を経て虚空蔵菩薩の靈験を聞き及んだ教了芳訓が天文2年（1533）この地に来てお像を安置する仏殿を建て智福山与願寺と称した。

〈主な行事〉

御忌会 盆施餓鬼会 虚空蔵菩薩十三参り



虚空蔵菩薩板絵  
(江戸後期)

#### ⑤ 小嶋平兵衛

三代小嶋平兵衛は天保12年（1841）から慶応4年（1868）にかけて、西大平藩三河領内の加茂碧海7か村（黒笹、三好、明知、打越、宮口、乙尾、井ヶ谷）の庄屋を束ねる割元。大庄屋として藩政の推進と地域発展のため力を尽くした。執務記録とも言うべき平兵衛自筆の「割元日記」が残されており、当時の村の様子や藩行政の一端を今に伝えている。



小嶋平兵衛邸長屋門（現在は見られない）



小嶋平兵衛「日記」(個人蔵)

#### ⑥ 三好原行者堂

行者堂は三好原行者講の人たちが役行者（修験道の開祖）を祀るお堂である。行者講は奈良県大峯山に対する信仰で、三好原では毎年、山頂の蔵王権現に参拝し、お礼を受けて小嶋平兵衛の長屋門に掲示した。

参拝は盆の8月12日から15日に行われ、この間、小学1年生以上の男児が行者堂に集まり、15日に行う行者祭りのため勧進とお籠りをした。



三好原行者堂正面

## ⑦熊崎山の開発



熊崎憲二郎頌徳碑

昭和5年(1930)頃、名古屋市熊崎惣二郎(1889~1964)が5カ年計画で、自費を投じ、八和田山一帯約10万余坪に及ぶ区画の整理事業を行った。主幹道路、別荘地帯、遊園地を造成、稲荷神社などを建立。その他に田地1町2反部を三好下に寄付。昭和12年(1937)に完成させた熊崎の偉業から、八和田山は熊崎山と呼ばれるようになった。第二次世界大

戦後、10万余坪の土地は農地法により、地元住民に配分された。一方、寄付された1町2反部の田地は集落の中部電力変電所に売却され、代金は児童館の建設、集落の道路舗装や畑地の灌漑事業に役立てられた。折からの愛知用水導入が飛躍的に果樹栽培農業を発展させた。

三好下区民は熊崎の功績とその恩恵を永遠に伝えるため、三好下公民館前に「頌徳碑」を建てた。

## ⑧法念寺(別時講教会)

元割元庄屋であった小嶋平兵衛の持仏堂へ、明治18年(1885)頃に野々山宇右衛門が発心し、剃髪後に明円と改名して入堂した。その後今の所(三好原)に移転し、回向庵と称した。宗教法人施行後に法念寺と改称。法念寺を中心とする念仏講は別時講と称し、念仏をして先祖の供養をするというものだった。当時の三好町ほとんどの地区を始め、豊田市、刈谷市など、近郷にまで講が及んでいた。



法念寺本堂

■ は寺社



## 名前の由来

三好町誌第一巻に、「室町時代の初期に幡豆郡の吉良氏の一族である一色勘次郎氏宗がこの地に住んだことによる」とある。建武4年(1337)「足助あすけ八幡宮縁起」の中に「高橋庄寺部…三吉村一色…」とあり、この頃には一色の郷があった。

一色村の南西で境川沿いのやや高い丘あたりに江戸時代慶安2年(1649)の地検帳に「荒井村」という郷があったが、境川の氾濫等により消失し、一

色村に併合されたと思われる。寛政年間(1789~1801)の村絵図に「字荒井森前」という地名が残る。

明治5年(1872)額田県の西一色村と改称された。一色村の柘植氏は東郷町諸輪の柘植氏とは同じ一族と言われている。

## ①西一色神明社

永享3年(1431)の神明社の棟札に「高橋庄三吉一色郷」とあり、この頃に創建されたと思われる。この棟札の他にも、以降の多数の棟札がある。社殿の中には農業神である洲原神社のお札がおさめられ、また、猿投神社とのつながりもある。

- ・御祭神  
あまてらすおみかみ あまてらすおひるめのみこと  
天照大御神(天照大日靈尊)
- ・その他の社(猿投社、秋葉社、山神社、西一色神社)



西一色神明社拜殿

## ②薬師堂

元禄4年（1691）に建立。東郷町にある祐福寺の僧の隠居所として開創された。宗派は浄土宗西山禅林寺派（本山は京都の永観堂）本尊は薬師如来像、現在の檀信徒は柘植氏、加藤氏等約80戸である。また、薬師堂の裏に文化3年（1806）正月、柘植氏建立と記した庚申塚こうしんづかがある。



薬師堂（左の大木は樹齢数百年のシイの木）

## ③高札場跡



高札場跡

当時の法令（きまり）を板面に書いて、木の棒の足を付けて立て、村人に知らせる方法で、墨で書いた。内容は、表題・内容・年月日と知らせの責任者の名前が書かれていた。この制度は明治7年（1874）に廃止された。

## ④郷蔵跡

江戸時代の村の穀物保管所跡で、郷蔵は年貢（当時の税金）を納めるために米等をここに一時集積した所である。



郷蔵跡（現在出荷場）

## ⑤柘植道満屋敷跡



道満屋敷跡付近

屋敷跡のあった場所は現在不明であるが、柘植氏は伊賀の国の柘植郷から柘植氏と名乗り東郷村（現在の東郷町）諸輪に移住した。この諸輪から道満が一色村に移住して、屋敷をかまえたと記録にある。

## ⑥板橋



境川の板橋（現在の様子）

江戸時代の頃は、西一色村から東郷村へ行くのに渡る橋が近くなかった。そこで川を渡るために川の浅瀬に石を置き、渡るときに板を架けて利用するといった方法を考えた。使わない時は板を外し、大水が予想された時には流されない所に

片付けた。西一色村では、東郷村の祐福寺と傍示本に行くための2カ所の板橋があった。その後昭和の頃に、川の中にコンクリートの支柱を立て、コンクリートの支柱に鎖を付けて人が歩ける幅のコンクリブロックが架けられてより便利になった。大水があってもすぐ下に落ち、鎖で支柱につながっていて、水が引けば下に落ちたブロックをまた支柱に架ければ渡れたのである。しかし今では西一色町の中ほどに鉄骨造で幅約1.5mの欄干付の舗装された橋が架けられ、自転車や歩行者が安全に祐福寺方面と往来している。

## ⑦一色村文書

この文書は、西一色村で大切に保管されてきた古資料を整理・分類し、周辺市町の文献を調べ合わせてまとめた西一色村の文書である。



一色村絵図（みよし市立歴史民俗資料館蔵）

（平成6年3月31日発行、編集 三好町歴史民俗資料館、発行 三好町教育委員会）

この文書はみよし市でも貴重な文書となっている。

この文書の内容は当時の年貢の徴収方法・米の取れ高、村絵図などが数多く掲載されている。

■ は寺社



## 坂井文助の移住、帰農

坂井文助利貞は織田信長に仕えていた武士であったが、本能寺の変で信長が討たれた後、豊臣秀吉、松平忠吉などに仕え、二代利政は徳川義直に仕えたが、文助の孫利知の代に改易され、福田に移住した。

寛永年間（1624～1644）に尾張の海部郡から酒井伍兵衛が数人を連れてこの地の開拓に着手した。その後万治年間（1658～1661）に村として機能しだした。当初は福田原新田と呼ばれていた。

## ①福田の眼医者

利知の弟利道が眼医者を開業する。代々眼医者を開業、その後酒井と改称、②利庸③利教④利正⑤利定⑥りへ⑦利承⑧利亮⑨利之⑩利泰⑪利孝⑫利彦と続いている。

眼医者が開業し、平針街道の往来が盛んになり、福田の郷中には戦前、八百屋、魚屋、飲み屋、宿屋、ビリヤードなどが建ち並んでいた。



眼医者の玄関（左）と待合室（右）



## ②金毘羅宮

天保6年（1835）酒井家七代利承<sup>としつぐ</sup>が建てる。（みよし市指定文化財）

酒井家は代々金毘羅宮を崇拜して、当主が四国へ何度もお参りしている。



金毘羅宮

## ③福田神明社



神明社鳥居

現在の福田集落から離れた所にある、元は山ノ神と言われていた所に元禄の頃に鎮守とされた。この神明社の東の道が通称かまくらみちである。三好で拳母道<sup>こらもみち</sup>と合流して、拳母へつながる。

## ④江戸時代の道と常夜灯

福田原新田では道路が計画的に造られていた。碁盤割に仕切られた道路が今も残っている。



十字路の辻

集落の端には常夜灯が建てられ、現在も集落の入り口を示す役割をしている。

江戸時代から明治にかけ夕方に菜種油を皿に入れ、芯に火をともした。近くの人が回り番で毎晩行っていた。



④村の南端に建てられた常夜灯

## ⑤海福寺



海福寺本堂

宗派 浄土真宗大谷派

本尊 阿弥陀如来立像

〈主な行事〉

報恩講

元は堤村西山にあったが、火事で焼失したため福田に移転した。

安永6年(1777)現地に移転して建立。

## ⑥長泰院（昔の小学校）の跡地

江戸時代、福田原新田の領主が伊保の本多氏であった頃長泰院（おうぼくしゅう黄檗宗）で信仰されていたが、明治初期九代で廃院となった。その後、学制発布で第二大学区第七番小学福田井ヶ谷学校が開かれた。明治9年（1876）9月碧海郡第七番小学福田井ヶ谷学校となり、明治22年（1889）三好村、西一色村、福田村が合併してこの学校は廃止された。



長泰院跡地にある住職の墓